

所属・資格 史学科・教授

申請者氏名 平野 卓治

研究課題		『出雲国風土記』と古代社会の研究
報告の概要	研究目的 および 研究概要	『出雲国風土記』を主な史料として、地名伝承の形成過程の分析を通じた地域社会のあり方、山・川・海などの自然と地域社会の人々との関係、出雲地域と他地域、王権との交流の様相・特徴などを分析していく。それにより、出雲地域のみならず、古代社会の特徴を明らかにする同時に、古代の王権・国家と地域社会と関係の特徴、その形成過程と特質を明らかにしていく。本年度は主として自然と地域社会との関係について検討を行った。
	研究の結果	『出雲国風土記』にみられる「川」の記載の特徴、河川をめぐる地域社会の交通の諸相―陸上交通と河川交通との関係、「市」の成立の状況などを明確化することができた。また水海の記載、特に「神門水海」の記載をめぐる、古代における水海の名称の検討などを通じて、「神門」の意味・意義、水海をめぐる地域社会のネットワークの様相を析出することができた。さらに『出雲国風土記』の写本に関するこれまでの研究を再整理し、編纂過程に関する新しい知見を得ることができた。これらの成果は、次年度に刊行を予定している著書に収録する予定である。 また、古代王権の特質について、対外交流という視点からの分析も行った。
	研究の考察・反省	地名伝承の形成過程の分析、地域社会にとって地名伝承がどのような意義を有していたのか、出雲地域のみならず、「風土記」が残されている国々の事例をふくめて検討していくことが課題である。また、出雲地域と王権との交流の様相と特徴を分析していくことも大きな課題である。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	研究成果物 「対外交流と王権」、仁藤敦史編『古代王権の史実と虚構』、2019年2月、竹林舎	※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者		